

3月議会の報告 ⑥ 重要課題 ごみ処理問題

2012.5.13 議会報告会

担当：渡辺 大三／議会運営委員

本日はお忙しい中、議会報告会にご参加いただきありがとうございます。私からは、2月3月に行われた第一回定例議会における動きを中心に、小金井市の「ごみ問題」について御報告申し上げます。

小金井市の「ごみ問題」は、すでに四半世紀を超える大変長く複雑な経緯があり、私の持ち時間の8分以内では説明ができません。そこで、お手元にお配りしております通り、「小金井市のごみ問題の略年表」を作成いたしました。この間の経過がよく分からないという場合は、ぜひご一読いただき、参考にしていただければ幸いです。

小金井市議会では、ごみ問題は、「ごみ処理施設建設等調査特別委員会」を中心に審査を行なっています。特別委員会では、「新ごみ処理施設建設」「広域支援」「ごみの中間処理や終末処理」「ごみリサイクル」「二枚橋焼却場の解体工事」などのテーマ別に議論を行なっています。

ごみ問題に限りませんが、他の自治体との交渉や計画の策定は市長並びに行政の責任で行なわれており、議会には交渉権や計画策定権がありません。したがって、議会としては、市長や行政からの報告を随時受けて、その進め方や内容に意見を述べる形で「ごみ問題」に関わっております。市長並びに行政側が交渉をまとめ、しっかりと計画を打ち出せば、その計画を実行に移す予算は議会の議決が必要になります。市民の皆様からは市長並びに行政と議会の機能の違いは分かりにくいと思われそうですが、そのような役割の違いが有る点をご理解いただければ幸いです。

さて、第一回定例議会における特別委員会は3月14日に開催されましたので、その概要をご報告申し上げます。

新ごみ処理施設建設問題について、稲葉市長から以下の報告がなされました。「2月24日に調布市長を訪問した」「調布市は二枚橋焼却場跡地にクリーンセンターの機能を移転したいとの考えを示した」「小金井市は二枚橋焼却場跡地の活用を基本としていたが極めて厳しい状況となった」「今後は国分寺市と十分な協議を行いながら、可燃ごみの安定的な処理体制の確立に向けて、あらゆる方策を慎重に検討していく」「国分寺市長に対しては、調布市訪問と同日に電話で報告し、さらに3月7日には訪問した」「国分寺市長からは、国分寺市は二枚橋にこだわっていない。引き続き他の適地を探してほしいとの発言があった」。以上が稲葉市長からの報告でした。

これに対して、特別委員会に所属する委員から、以下のような質疑がなされました。

○委員の質問「国分寺市長は他の適地を検討する方法もあるだろうと述べているが、稲葉市長はどのように回答したのか」。

●稲葉市長の答弁「私としては、それは困難であると申し上げたが、国分寺市長からは引き続き他の適地を探してほしいと重ねて言われた」。

○委員の質問「国分寺市との関係も一定早急に目途を立てていく必要があるのではないか」。

●稲葉市長の答弁「ご指摘の通りである。長引かせることは、国分寺市にとっても迷惑をかけることになると思っている」。

○委員の質問「小金井市民にずっと不安を与えている。やはり謙虚に謝罪を含めてしていく必要があるのではないか」。

●稲葉市長の答弁「この問題がきちんと片付いた段階で私の方から市民の方々、二枚橋の地元の方々には説明させていただきたい」。

○委員の質問「国分市から他の適地をと言われているが、また1年2年かけて探すことになれば国分寺市に迷惑をかけることになるし、広域支援先にも大変ご迷惑をかける結果になるのではないか」。

●ごみ処理施設担当部長の答弁「ここに至って改めて市内で他の場所を探していく、確保していくということは極めて困難である」。

○委員の質問「国分寺市との関係をきっちりと整理しないとそれから先へとは進めない。道筋、段取りはどうするか」。

●稲葉市長の答弁「丁寧に進めていく必要がある。私自身が国分寺市への約束を履行できなかったことに関しては、謙虚に認め、謝罪をしていかなければならない」。

質疑は他にも多数なされておりますが、時間の関係上、以上の紹介にとどめます。

さて、第一回定例議会の報告は以上ですが、直近の情報に関しましてもご報告申し上げたいと思います。去る5月9日にも特別委員会が開催されました。新ごみ処理施設建設問題については、4月1日に着任し、ごみ問題を担当することになった三木副市長から「今、国分寺市との話し合いを継続している。二枚橋での共同処理は難しくなった。二枚橋以外の適地は小金井市内にないと伝えている国分寺市にはお詫びをしつつ、円満な解決を図っていく」との報告がなされました。また、稲葉市長からは、二枚橋焼却場跡地への建設をめざしてきた自らの判断が甘かったとの反省の弁が有り、今後のことについては、「平成24年度中に実現可能な方策を示すという点に変わりはない。できるだけ早く方針を定める努力をする」との見解が示されました。平成24年度中というのは、来年の3月までに、という意味です。

なお、本年度の小金井市の燃やすごみの引き受け先に関しては、ごみ処理施設担当部長から「1万3000トンの発生見込み量の内、9500トン分が契約に至っている」との報告が資料に基づいてなされました。昨年度の引き受け先一覧と、本年度の現時点での引き受け先一覧は配布しました資料の通りですので、お目通しいただければ幸いです。

以上御報告申し上げました通り、新ごみ処理施設問題に関しては、二枚橋焼却場跡地全体の取得が極めて困難な状態となったことから、将来の共同処理を約束した国分寺市との関係をどのように整理するのかが当面の最重要課題となっております。また、本年度のごみ処理については、今後も引き続き引き受け先を探さなければならない状況となっております。

以上で報告を終わります。時間の関係で雑駁な説明となりましたが、ご不明の点は、後刻、皆様よりのご質問にお答えしたいと思います。ありがとうございました。

*当日の発言とは若干異なります。